

## 会 議 録

1 附属機関の会議の名称

令和5年度第1回妙高市文化財調査審議会

2 開催日時

令和5年10月11日（水） 14時から16時

3 開催場所

妙高市役所 402会議室

4 出席した者の氏名

(1) 委員

浅倉有子 加藤拓立 川上昭治 清沢 聰  
小柳義男 濁川明男 西山耕一 平出京子

(2) 執行機関

生涯学習課長 嶋井 敏英 市史編さん準備室長 上田 芳彰  
文化振興係長 佐藤 慎

(3) 傍聴者 なし

5 議事録署名委員の選出

名簿順（50音順）とし、今回は「濁川 明男」委員と「西山 耕一」委員を選出。

6 議事

(1) 報 告

妙高市史編さん準備委員会の動向について

(2) 報 告

天神社の大スギ保存活用計画策定委員会の動向について

(3) 検 討

新たな市指定文化財の候補について

7 発言の内容

**[議事]：(1) 報告 妙高市史編さん準備委員会の動向について**

妙高市史編さんの全体計画（案）を策定するために設置した市史編さん準備委員会の動向について、編さんに至る背景、編さんの目的、委員会での検討事項、検討スケジュール、アンケート調査の実施状況等について、資料1に沿って概要を説明した。

[質疑]

- 委員：妙高市は近くに新幹線の駅があり、雪に恵まれ、スキーのインバウンドの需要が見込める。これからは外国人に向けた発信も必要ではないか。子どもたちが外国人に妙高市を紹介するときによい教材として活用できるものを目指してほしい。
- 委員：妙高高原の観光とスキー等、旧3市町村はそれぞれ歴史や産業に特徴がある。旧3市町村史に書かれていることを全て入れると、何巻にでもなってしまうので、メリハリをつけて取捨選択しなくてはならない。折り合いを付けるのが難しいのではないか。
- 委員：市民が読みやすいものを目指すという考えはよく分かるが、内容が浅くならないかが心配である。市史には歴史研究の基礎資料としての価値がある。
- 委員：『新井市史』には千草石の採掘の歴史がほとんど書かれていない。新井の石材業に対する意識が低すぎる。
- 委員：後世の人が歴史を調べようすると、市史を頼りにすることになる。そこに大事な資料が載っていないようでは市史として価値がない。原典となる資料がきちんと収録されていることが重要ではないか。
- 委員：読みやすいものと、資料集は別にすべき。
- 委員：古文書以外にも、絵画や仏像等の様々な資料が歴史研究の対象となる。古文書に偏らずに調査してほしい。
- 委員：市史編さんにどれくらいの予算をかける予定なのか。
- 事務局：予算規模については、まだ具体的な検討をしていない。
- 委員：地方財政が厳しい中、どれだけ予算をかけられるかで、中身が決まってくる。
- 委員：ダイジェスト版といわゆる市史は、分けて考えるべきではないか。誰もが手に取って読んでみたい市史というのは、果たして可能なのかどうか疑問である。
- 委員：時間に制約があると、今までに分かっていることしか書けないで終わる。分かっていることを上手に組み合わせただけの市史になる。知りたいことをもっと掘り下げて調べる余裕をもってほしい。
- 委員：妙高村史には斑尾高原の下に広がる沼の原湿原の記述も抜けている。妙高市がもつ唯一の素晴らしい湿原であるが、その成り立ちやそこでの生活については、これまで十分に調べられていない。
- 委員：市史編さん事業については、新井市史が刊行された後の50年間を対象にしていると聞いたことがある。現在は違うのか。
- 事務局：現在は、旧3市町村で扱われることがなかった新たな史資料を用いて、原始・古代から編さんしようと考えている。
- 委員：願生寺の歴史や評価については、新たな文献の発見で『新井市史』の記述と大きく変わってきている。そういった成果もこれからの市史編さんに活かしてほしい。
- 委員：発電施設や用水路は行政区で分断されていない。行政区画を越えて広がるものに配慮してほしい。
- 委員：妙高山信仰は北信濃との関係が深い。長野県の研究成果も取り込んで進めてほしい。

## [議事] : (2) 報告・・・天神社の大スギ保存活用計画策定委員会の動向について

令和5年度事業として策定を進めている「天神社の大スギ保存活用計画」について、計画策定の趣旨、策定の目的、計画に記載する内容、策定委員会の設置、策定スケジュール等を資料2に沿って説明した。

[質疑]

委員：専門家の見立てでは樹齢はどのくらいなのか。

事務局：中心部が大きく空洞になっているため、正確に測定することはできないが、胸高直径等から500年以上は経っているとみられる。昭和16年に指定されたときの所見では、樹齢800年以上となっている。

委員：杉の成長については、80年くらいまでは年にほぼ比例して年輪が増えていくといわれているが、その後100年を過ぎたあたりからグラフが平らになっていくようだ。

委員：戸隠神社のスギと比べて大きさはどうか。

事務局：中社の前のスギが特別大きいですが、感覚的にはいい勝負ではないかと思う。

委員：委員の中に天神社の氏子総代が入っているが、スギの所有者は天神社なのか。

事務局：所有者・管理者は天神社である。天神社には宮司は不在で、斐太神社の兼務社になっている。

委員：氏子の範囲はどれくらいか。

事務局：江戸時代の上原村の範囲と、明治時代以降に新しくできた妙高温泉の範囲である。

委員：委員の中に関川区長が入っているが、地元の保存活用計画の中に、今回の計画に関する記載があるのか。

事務局：地区の保存活用計画の中に盛り込まれている。地区の計画では、天神社の大スギを神聖な御神木、その境内地を地区内屈指のパワースポットとして位置づけ、地区に伝わる親鸞聖人・熊坂長範・児雷也等の霊験譚の発信拠点として整備していこうという方向性が示されている。そうした経緯から、計画の推進役である関川区長からも委員に加わっていただいている。

委員：整備に国の予算を活用することができるのか。

事務局：国の天然記念物に指定されている樹木なので、可能である。今回の保存活用計画の策定によって全体計画がまとめられることで、国の支援の幅が広がると考えている。

委員：神社はいつ創建されたのか。

事務局：最も古い資料は神社の裏にある天保13年(1842)の石祠で、これが江戸時代の天神社とされている。現在の社殿はそれよりもずいぶん後になって建てられたものである。現在の社殿が建つまでは、御神木である大スギの前に石祠が安置されていたようである。

委員：地元では、御多分に漏れず、過疎化や少子化の中で非常に悩んでおり、マイナスのイメージが非常に強い中で、地域の宝である大スギを大事していこうという気持ちが生まれ始めている。現在、新潟県内には国指定天然記念物のスギが3本存在するが、関川のスギの整備が一番遅れている。

委員：国の指定を受けているスギは、御神木の1本だけなのか。

事務局：1本だけである。単木の指定であるが、スギの生育環境の改善やスギの価値を伝えるための情報発信、必要な環境整備や施設の設置等については、補助メニューで対応可能だと考えている。

委員：地域がやる気になるような働きかけをお願いしたい。

**[議事]：(3) 検討・・・新たな市指定文化財の候補について**

新たな市指定文化財の候補について、事務局が考える3件を資料3に沿って提案した。候補の選定にあたっては、指定後に有効な保護措置が講じられること、所有者の同意が取れること、指定によって保存と活用の取組が地域全体に広がること、等の諸点を重視したことを補足で説明した。

検討の結果、3件を指定候補とすることについての了承が得られ、本格的に調査していくこととなった。

**[質疑]**

委員：寺尾というのは旧妙高村の何地区になるのか。

事務局：原通地区である。

委員：古文書の2件は実見したことがあるが、とてもよいものである。太田家文書には家光に関する由緒書があるし、村越家文書には宝蔵院日記等がある。

委員：中身は素晴らしいと思うが、実際に見せてもらうことが可能なのか。

事務局：本日の審議会で正式に指定候補に位置付けられれば、先生方に調査をお願いしたいと考えている。

委員：仏像についても、専門家から調査をしていただくのがよい。地方仏師の作であれば、貴重な資料となる。

委員：寺尾薬師は建物の管理が困難になってきているという話である。仏像だけではなく、建物も含めてこれからどうなっていくのか気がかりである。

委員：寺尾薬師には住職はいないのか。

委員：昭和の時代に無住になり、その後は地元で管理していると聞いている。

委員：この3つの資料については、市指定文化財の候補とすることについて異論はないので、指定に向けて具体的に調査を進めてほしい（委員全員が了承）。

上記に相違ないことを確認する。

令和 5年 10月 25日

氏名 濁川 明男

氏名 西山 耕一

令和5年10月11日(水) 14時～16時  
妙高市役所4階 402会議室

令和5年度 第1回 妙高市文化財調査審議会 次第

1 開 会

2 生涯学習課長あいさつ

3 議事録署名委員の選出について

4 議 事

(1) 報 告

妙高市史編さん準備委員会の動向について . . . . .資料1

(2) 報 告

天神社の大スギ保存活用計画策定委員会の動向について . . . . .資料2

(3) 検 討

新たな市指定文化財の候補について . . . . .資料3

5 その他

6 閉 会

(報告 1)

## 妙高市史編さん準備委員会の動向について

### 1 背景

- ・旧 3 市町村の自治体史刊行から古いもので半世紀が経過し、現在に至るあゆみを新たにまとめる必要がある。
- ・昭和 5 0 年代以降に急激に増加した発掘資料や、近年急増している受贈古文書によって、従来とは異なる新たな歴史像が形成されつつある。
- ・合併から 2 0 周年を迎えようとしている現在、旧 3 市町村のあゆみを総括し、妙高市がもつ特長や妙高市らしさを追求することが、市の将来を考える上で重要となっている。

### 2 市史編さんの目的

- ・(愛郷心の醸成)  
将来を担う世代に妙高市の歴史文化を正しく伝え、郷土に対する誇りや愛着を醸成する。
- ・(史資料の継承)  
妙高市の歴史に関する貴重な史資料を適切に整理保存し、後世のために永く継承する。
- ・(地域振興)  
歴史や文化の視点から妙高市の地域特性を浮き彫りにし、市の特性や魅力を文化向上や産業振興に役立てる。

### 3 編さん準備委員会の設置

- ・目指すべき市史のかたち、事業の全体像を明確にするために、市史編さん計画案を作成するための準備委員会を設置。

令和 5 年 6 月 2 0 日に設置要綱を制定、7 月 1 日に委員 5 名を委嘱。

- ・委員 朝倉有子（上越教育大学名誉教授） ※副委員長  
小林啓一（元妙高市教育長、元新潟県社会科教育研究会会長） ※委員長  
笹本正治（長野県立博物館特別館長、元信州大学副学長）  
志村喬（上越教育大学副学長、教授）  
本田雄二（新潟県立文書館認証アーキビスト）

#### 4 主な検討内容

- ・市史編さんの基本方針
- ・市史の内容（全体構成・規格・発行部数等）
- ・編さん期間
- ・刊行年度
- ・編さん組織

#### 5 検討のスケジュール

- ・第1回準備委員会 7月20日
- ・第2回準備委員会 10月19日
- ・第3回準備委員会 1月（予定）
- ・令和6年3月 妙高市史編さん計画案を妙高市に提出

#### 6 アンケート調査の実施

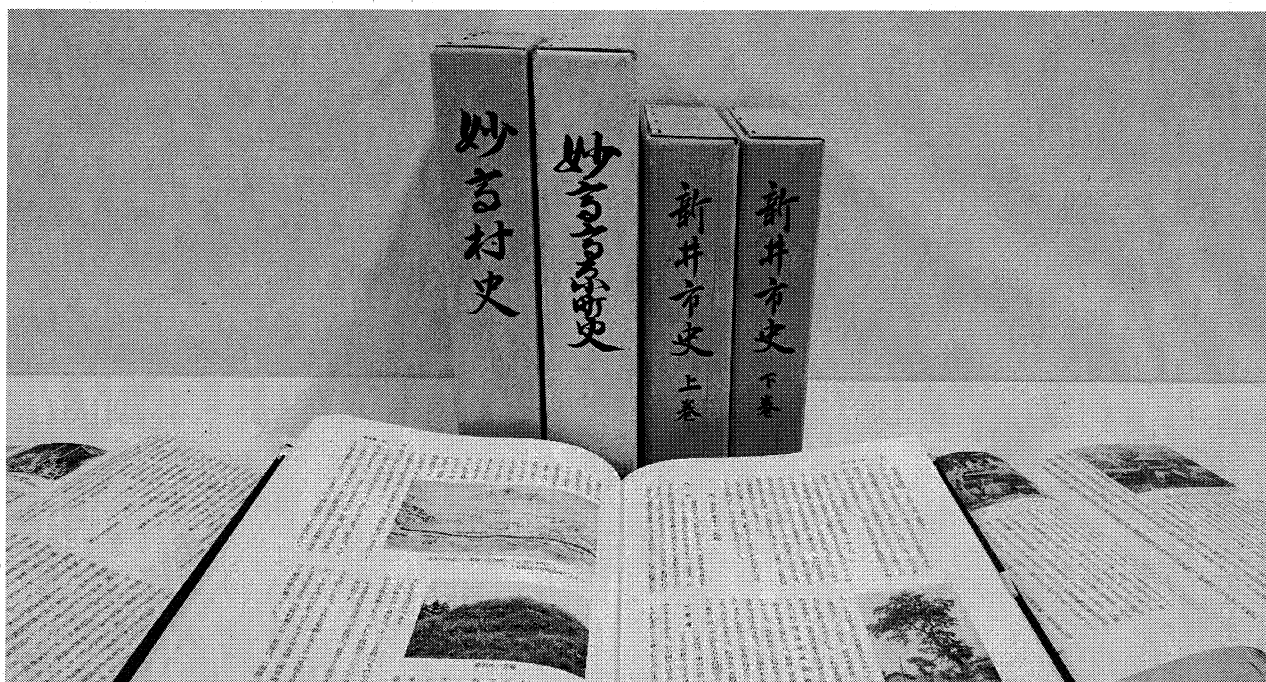
- ・別紙

別紙

# 「妙高市史」

の編さんに関して

アンケートへのご協力をお願いします。



実施期間 令和5年9月20日(水)から11月20日(月)まで

回答方法 インターネット回答

下のQRコードから回答フォームにお進みください。



問合せ 妙高市教育委員会生涯学習課市史編さん準備室  
電話 (0255) 74-0035



(報告 2)

## 天神社の大スギ保存活用計画策定委員会の動向について

### 1 計画策定の趣旨（策定のメリット）

- ・国指定文化財を保存・活用していくための指針となる基本的な計画。
- ・保存状態や管理状態、次世代への継承に向けて直面している課題が整理される。
- ・保存・活用に関する基本的な考え方、厳密に保存すべき部分、改変が許容される箇所や程度等が明確になる。
- ・保存・活用のために必要な事項を行政や地域住民に対して「見える化」し、所有者だけでは対応が難しい部分への支援強化が見込める。

### 2 策定の目的

- ・日常管理や文化財保護措置に関する指針の明確化
- ・大スギの本質的価値、地域の歴史との関わり、地域資源としての可能性の検討
- ・保存・活用に関する施策の具体化      ・関係する団体間の連携促進

### 3 内容

- ・別紙

### 4 策定委員会の設置

- ・有識者と地元住民の代表で構成される保存活用計画策定委員会を設置。  
令和5年5月25日に設置要綱を制定、同日に委員7名を委嘱。
- ・委員 荒井和則（天神社氏子総代）  
五百川裕（上越教育大学教授） ※副委員長  
大橋忠弘（日本樹木医会新潟県支部長）  
清沢聰（妙高市文化財調査審議会委員） ※委員長  
小柳義男（妙高市文化財調査審議会委員）  
関原一義（妙高ツーリズムマネジメント事務局長）  
丸山真児（関川区長・大字関川歴史文化保存活用計画推進協議会会長）

### 5 策定のスケジュール

- ・第1回委員会 7月4日
- ・第2回委員会 9月26日
- ・第3回委員会 12月18日（予定）
- ・令和6年3月 計画書発行

**1 計画の概要**

- (1) 計画策定の背景・経緯
- (2) 計画の目的
- (3) 委員会の設置・経緯
- (4) 計画の位置づけ（他の計画との関係）
- (5) 計画の対象
- (6) 計画の期間

**2 天神社の大スギの概要**

- (1) 指定に至る経緯
- (2) 指定の状況

**3 本質的価値の把握**

- (1) 本質的価値
- (2) 新たな価値評価の視点
- (3) 構成要素の特定

**4 現状と課題**

- (1) 保存管理
- (2) 活用
- (3) 整備
- (4) 運営及び体制整備

**5 基本方針**

**6 保存管理**

- (1) 保存管理の方向性
- (2) 保存管理の方法

**7 活用**

- (1) 活用の方向性
- (2) 活用の方法

**8 整備**

- (1) 整備の方向性
- (2) 整備の方法

**9 運営・体制**

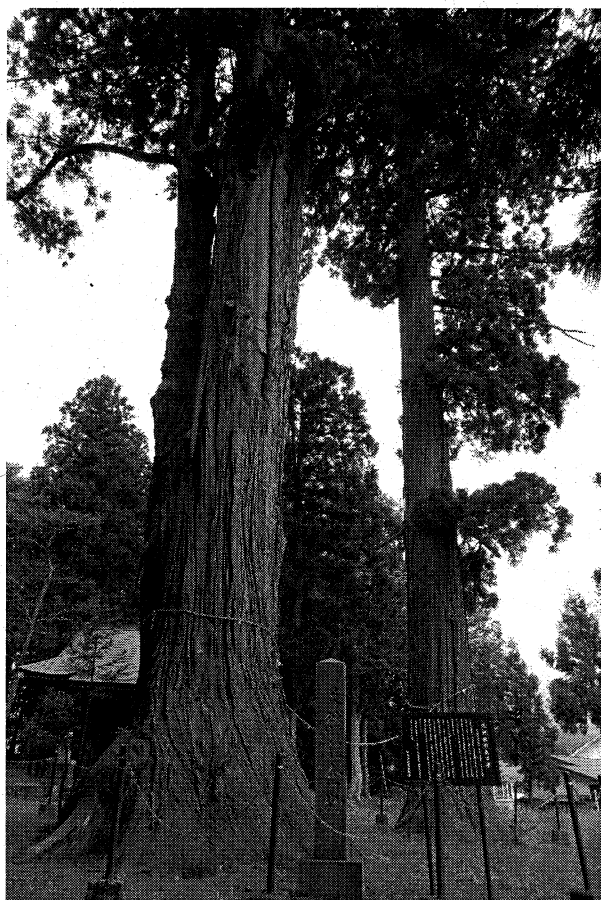
- (1) 運営・体制の方向性
- (2) 運営・体制の方法

**10 実施計画と進捗管理**

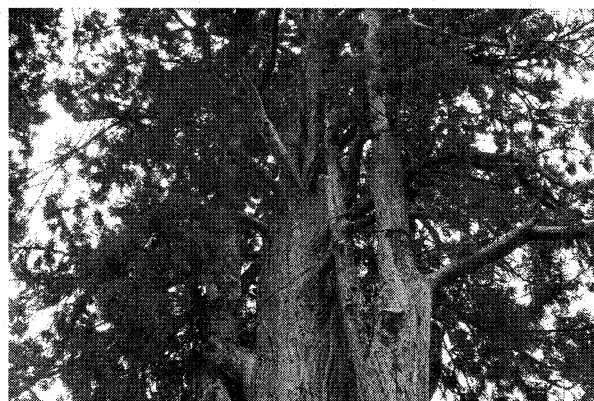
- (1) 実施計画
- (2) 進捗管理



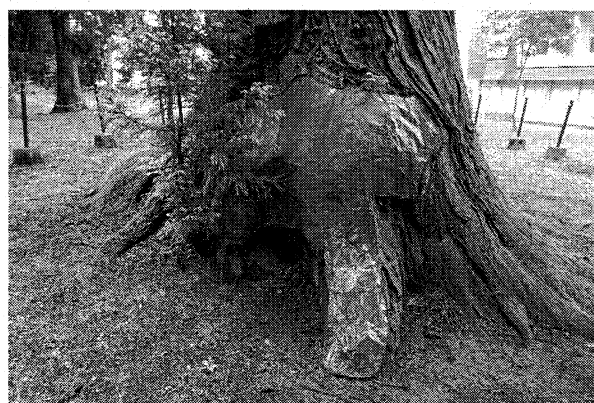
御林の中に御神木が鎮座する景観



下枝が枯損した現在の姿



幹上部の枯枝



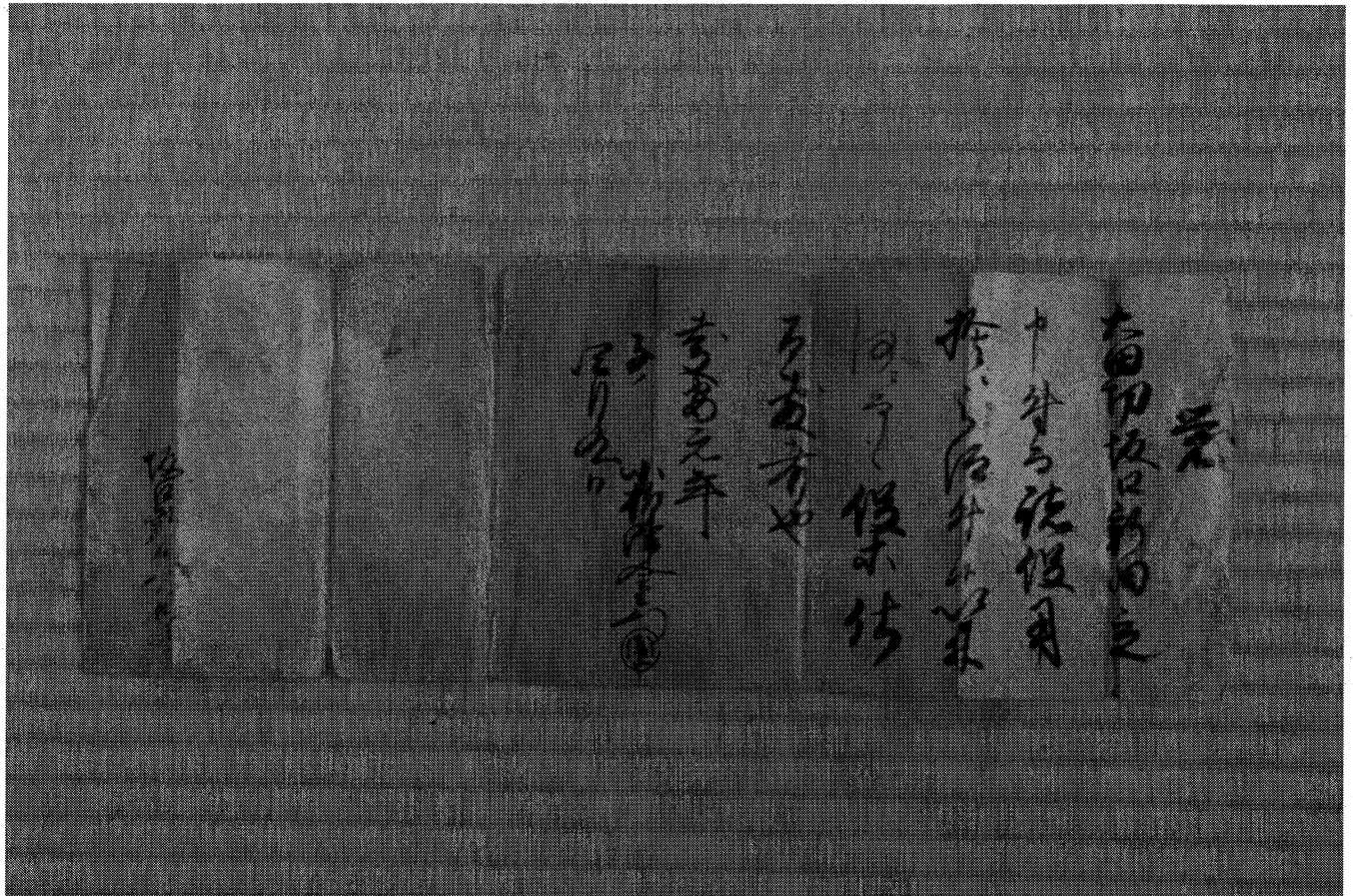
根元の腐朽部

## (検討) 新たな市指定文化財の候補について

## 【候補 1】 太田家文書 (坂口新田)

名 称	太田家文書
員 数	628点
種 別	有形文化財 (古文書)
時 代	江戸時代～昭和時代
所 在 地	妙高市大字関山
保管施設	妙高支所
所有者・管理者	妙高市
説 明 文	<p>太田切川の北側に位置する坂口新田において、江戸時代に代々庄屋を務め、明治時代に入ってから副大区長を務めた太田家の家伝文書。</p> <p>年貢・検地等の村政に関する文書の他に、三代将軍・徳川家光の命によって開村したことを伝える由緒書や、度重なる宝蔵院との水論に関する資料が残る。明治時代以降の史料の中には、土地や戸籍関係、学校建設や鉄道建設に関する文書がみられる。絵図が多く残ることも特筆される。</p> <p>古文書類は平成 23 年に妙高市が全て受贈。近世から近代にかけての和本も多く含む。</p> <p>〈主な史料〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・慶安元年 覚 (諸役免除御判物)</li> <li>・正徳 5 年 新古堀出入裁許状</li> <li>・安永 9 年 越後国頸城郡坂口新田検地帳</li> <li>・文化 6 年 坂口新田由来之事</li> <li>・文化 8 年 二本木組坂口新田明細帳</li> <li>・明治 6 年 朱印地除地類書上帳</li> </ul> <p>〈参考〉</p> <p>『新潟県史』別編 2 資料所在目録        中頸城郡妙高村 太田謙家古文書目録 (新潟県立文書館作成)</p>





慶安元年 覚（諸役免除御判物）



文化6年 坂口新田由来之事

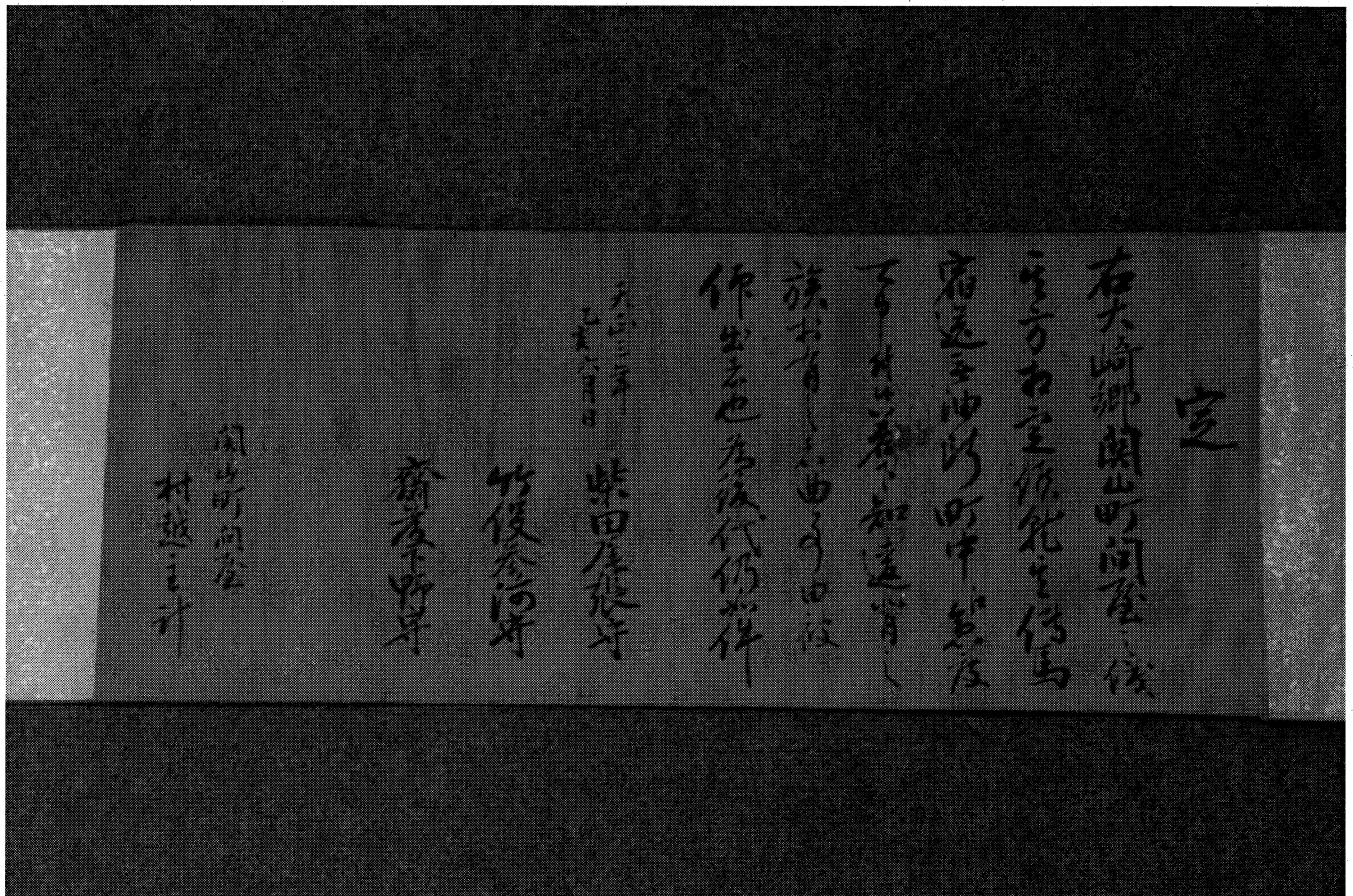
【候補 2】

名 称	村越家文書
員 数	419点
種 別	有形文化財（古文書）
時 代	江戸時代～大正時代
所 在 地	妙高市関山
保管施設	—
所有者・管理者	妙高市
説 明 文	<p>江戸時代に北国街道の関山宿において代々問屋・脇本陣を務めた村越家の家伝文書。</p> <p>江戸時代の関山宿の問屋に関する文書を中心に、宝蔵院旧蔵とみられる文書や榊原家の日記の写し、明治時代に入ってから関山神社の祭礼等に関する文書等が残る。その他、脇本陣を務めていたこととの関係から、和歌の短冊や扇子形の書画等も含まれる。</p> <p>古文書類は平成 23 年に妙高市が受贈。</p> <p>村越家文書のうち、既に 2 点の宝蔵院日記が市の文化財指定を受けている。</p> <p>〈主な史料〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・天正 3 年 伝馬定め</li> <li>・天明 3 年 通人足渡方帳</li> <li>・天明 7 年 松平出雲守様御遺骸御宿割帳</li> <li>・寛政 8 年 関山権現祭礼手文</li> <li>・文化 2 年 宝蔵院日記（常穩代）</li> <li>・文化 8 年 村明細書上帳</li> <li>・文政 3 年 戸隠山御裏山御才木熟談一件控</li> <li>・榊原家日記の抜録・御仕置留の写し</li> <li>・関山神社関係文書</li> <li>・関山スキー倶楽部関係文書</li> </ul> <p>〈参考〉</p> <p>『新潟県史』別編 2 資料所在目録          中頸城郡妙高村 村越義郎家古文書目録（新潟県立文書館作成）</p>





村越家文書



天正 3 年 伝馬定め

【候補3】

名 称	薬師如来坐像
員 数	1 軀
種 別	有形文化財（彫刻）
時 代	室町時代
所 在 地	妙高市大字寺尾
保管施設	薬師庵（薬師堂）
所有者・管理者	大字寺尾
説 明 文	<p>妙高市大字寺尾地内にある薬師庵（旧東光庵）の本尊。寛政4年に古川七右衛門が高床山から寺尾に本尊を移し、仏堂を創建したのが始まりという。</p> <p>像高約72センチメートル、制作時期が室町時代初期までは下らないと推測される木彫仏。杉材の寄木造りであり、地方仏師による作とされるが、詳細は不明。戦国時代に鳥坂城が普請された高床山の南麓に位置することから、山岳信仰や山城との関連性が指摘されている。</p> <p>〈参考〉 「1 大鹿・原通地区と文化財」「6 寺尾薬師」『村の文化財』文化財調査報告書第二輯（妙高村教育委員会 1973年）</p>

